

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

2019年度総会

—5月25日(土) 午後1時半～3時：ココネリホール東側
3時～5時は「消費税」第2回学習会、年会費も受け付けます。

そうこうしているうちに、早くも総会シーズンを迎えました、文化の会の2019年度の総会は5月25日(土) 午後1時半～3時・ココネリホール東側です。会場取りが難しくなっていることもあって、終了後の3時～5時に眞嶋さんによる連続学習会第2回「消費税と税制」を組み込みました。総会で議論される18年度活動総括案と19年

度活動方針案は次回の「会だより」で同封致します。文化の会は21年度に創立50周年を迎えますので、会の原点を改めて見直すことと、時代に対応した活動をどう組み立てるかが課題でしょうか。

また若手に対するアプローチをいかに強化するかも引き続き大きな課題です。

「桜とみつがしわ」を鑑賞する特別企画—3月30日(土)

第1集合：正午—高野台改札集合 第2集合—2時：石神井公園駅西口
散策終了後に懇親会：石神井公園駅周辺 (実費) 雨の場合は中止

「桜」と「みつがしわ」を楽しもう—という狙いで3月30日に「桜とみつがしわ」にスポットを当てたインナー企画を組みました。集合場所も正午に高野台駅、午後2時に石神井公園駅西口の2か所を設定し、特に「お花見」の評価の高い高野台—石神井公園コースも設定しました。

「お花見」満喫してください。懇親会に参加いただける方は、店との関係もありますので、立川さん(080-1066-1457)までご連絡ください。

●ミツガシワ；旧リンドウ科ミツガシワ属 絶滅危惧ⅠA類

湖沼に群生する北方系の水生植物。花は4～8月ごろ高さ20～40cmの花茎を伸ばし総状、白色で長さ1～2.5cm、花冠は5裂し径～1.5cm。葉は長い柄があり、小葉は3個で柄はなく、長さ4～8cm、幅2～5cmで厚く鈍鋸歯がある。

花は三宝寺池の沼沢植物群落として国の天然記念物に指定されています。

●沼沢植物群落と春の花

三宝寺池の湧水は冷たく澄んでいたため、東京では珍しい沼沢植物が自生。昭和10(1935)



国指定文化財：三宝寺池沼沢植物群落
(練馬区のホームページから)

年12月に国の天然記念物に指定されました。春には氷河期からの生き残り植物といわれるミツガシワの白い可憐な花がひっそりと咲きます。

水辺観察園では、カキツバタ、コウホネ、ハンゲショウなどが見られます。また、池には野鳥がよく飛来し、春には愛らしいカルガモの親子の姿がよく見られます。三宝寺池の北の台地を中心にソメイヨシノが約170本、ヤマザクラが約70本、コブシ約140本あり、季節に合わせて見事な花を咲かせます。

消費税と税制を学ぶ連続3回学習会のご案内 —講師は眞嶋康雄・国学院大学講師

区議選挙、参院選挙と連続した選挙を控え、大きな焦点となっている「消費税と増税問題を基礎から学ぶ公開学習会」を4月～6月の3回にわたり、予定します。今回は7回にわたり眞嶋康雄（国学院大専任講師）に講義をお願いしましたが、今回も眞嶋さんに「できるだけ分かり易い内容で」という注文付きでお願いしました。

そこで下記のように第1回は4月27日（土）に「各税還付金制度で恩恵を受ける富裕層と大企業」のタイトルを予定。第2回の5月25日（土）は「消費税10%化は軍事費と大型開発への充てが狙い」を予定しました。一人でも多くの皆さんが参加されるよう、お願いします。

詳しくはチラシ（お知らせ）をご覧ください。
（田場・記）

◎連続学習会「基礎から学ぶ消費税と税制」 第1回

「ゼロから知る消費税と税制の歪み」

日時；4月27日（土） 午後6時半～8時

場所；練馬ココネリ研修室第3

第2回

「消費税10%化は軍事費と大型開発への充てが狙い」

日時；5月25日（土） 午後3時～5時

場所；練馬ココネリホール東側

第3回

（公開学習会、6月予定）

練馬の図書館は一体どこへ行く？

図書館専門員〈司書〉の役割、指定管理制度、図書館の役割など論議が必要

練馬区は、昨年7月効率化を理由に、練馬図書館、石神井図書館に対して、指定管理者制度の導入を決め、練馬区立図書館専門員労働組合に提案した。

現在練馬区には、分館を含めて13の公共図書館があり、そのうち10館が指定管理館となっていた。そこに中央図書館的役割を持っていた光が丘図書館を含めた3館のうち2館に対して、指定管理者制度を導入しようとするものであった。しかも、練馬図書館で働く32名の専門員に対しては、「実質的な解雇」という方針である。それに対して、組合は、昨年12月には「ストライキ」の方針を持って臨んだ。結果、ストライキは回避されたが、問題の基本的な解決には至らなかった。

この間「よりよい練馬区の図書館をつくる会」や「ねりま地域文庫読書サークル連絡会」等市民団体に協力などがあり、練馬区議会に対して「区立練馬図書館および石神井図書館の指定管理者制度導入の撤回を求める陳情書」を提出、1月段階で16,421筆を超えた。

こうした広がり、労働組合、市民団体の

粘り強い戦いで、今年の1月になって、練馬区の方から回答があり、図書館専門員の光が丘図書館での雇用確保と練馬図書館、石神井図書館の指定管理者制度の導入の二点が示された。

労働組合としては「断腸の思いで受け入れる」ことを決定した。成果としては、雇用の確保と、光が丘図書館のカウンター業務を現在の民間委託から専門員の仕事にもどすことが認められることである。

練馬区は、2013年6月に「練馬区立図書館ビジョン」を打ち出した。その基本ビジョンは「情報拠点として、区民に役立ち、頼りにされ、愛される図書館」としている。そこには、「職員の専門性や資料の活用」も打ち出している。指定管理者制度はまさにこれに逆行するものであり、短期間で移動する臨時派遣社員で勤まるかという疑問は、根本的な問題として、持ち越された。

もともと練馬区内では「図書館は自分たちで作るものだ」という意識から、地域文庫運動とともに図書館設立運動が活発であった。

しかし、その運動にかかわってきた人々が高齢化になるとともに第一線を退いた結果、その伝統と成果が薄れてきてしまった。

図書館は情報の拠点であるとともに文化の拠点であることは間違いない。今回の「指定管理者制度の導入」は、図書館を自分たちのもとに取り戻すきっかけになればと思っている。

練馬区には、「文化」の拠点が、図書館をはじめ、文化センター、ゆめりあホール、生涯学習センター、美術館、ふるさと文化館、

地域集会所など「文化」を生み出す場所がいくらかでもある。にもかかわらず「図書館の問題」などをひとつと捉えていたのではないか。

いま「よりよい練馬区の図書館をつくる会」は、人出不足で困っているそうです。「練馬・文化の会」としても、「文化」の原点に立ち返って、具体的な協力方法を文化の会全体で話しあう必要があるように思う。

「図書館をつくる会」の連絡先は、稲本健一さん。電話は3924-4817です。（森田・記）

「明日へー戦争は罪悪である」—1月30日の計3回の上映会に600名が参加 「練馬らしい大型の参加人数」と監督も激賞

「憲法」に焦点をあてた「日本の青空」シリーズの第4作「明日へー戦争は罪悪である」が1月30日（水）生涯学習センターで3回上映され、総計600名が参加し成功しました。各地域の9条の会、宗教関係者、それに文化の会が

呼びかけ人となって行われました。上映会に参加した監督からも「他地域では見られなかった参加人数」と激賞されました。宗教関係者が中心となつての上映会も企画されているとか……（田場・記）

文化の会のホームページをリニューアル—若者向けに内容刷新へ（再掲）

文化の会のホームページはこれまで寺崎進さんに管理をお願いしていましたが、ヤフーのサービスが3月末で終了するため、管理を寺崎さんから新会員の手島民夫さんをお願いし、もっと外部からのクリックを増やすために、

内容を刷新することを幹事会で検討し始めました。現在の内容は「会だより」が中心ですが、若者をメインに外部からの関心を引くような内容に——ということで、検討しています。（田場・記）

「福島を忘れない」第8回江古田映画祭が2日～14日まで古藤で上映・トーク 10日は武蔵大教室で「ダーク・サークル」上映とアーサー・ビナードのトーク 上映は15作品、トークには12監督が登場（チラシ2枚同封）

「福島を忘れない」江古田映画祭が第8回を迎えます。今回ラインアップされている作品は15作品。トークには15監督が登場します。

作品の内容をチラシで見る限り、実にさまざまなテーマが描かれており、選定した実行委員会やギャラリー古藤の田島さんのご苦労がしのべれます。

今回は2日の初日と10日は武蔵大学の教室を借りて上映・トークが行われます。2日はオープニングイベントとしてみちばたちちゃんぷるーのライブと、各地で始まったユニークな発電を描いた「おだやかな革命」上映と映画アド

バイサー高橋真樹氏のトーク。10日はエミー賞を獲得した「ダーク・サークル～プラトニウムの恐怖～」の上映と、同作品から多くを学んだアーサー・ビナードの特別講演「闇が湧き出るところ」が行われます。

ギャラリー古藤での上映には予約が必要ですが、武蔵大学でのイベントは予約は必要なしです。

最近3大学を擁する江古田の町のキャラクターが注目を集めていますが、江古田映画祭も大変な知恵と工夫、それにおそらく50名使いボランティアに支えられて回をおうごとに

魅力を増しています。もしかしたら、我々の望んでいるのかも・・・
む「脱原発」が遅滞しているのが大いにえいきよ

(田場・記)、

テレビ特にNHKの動向を厳しく監視しよう！(チラシ同封)
◎アベチャンネルにやり果てるな！放送記念日・集中行動◎
3月22日(金)朝9時半～11時 NHK西口前集会&激励ピラ入れ

放送を語る会、日本ジャーナリスト会議、などで構成する「NHKとメディアの「今」を考える会」が3月22日の放送記念日にNHKの門前で「アベチャンネルになり果てるな」のチラシを配布し、リレートークします。

よほどメディアに精通していないとつい見落としてしまいますが、「週刊金曜日」の2月15日号が大テーマとして「NHK研究スペシャル」を特集しています。この特集では4人の論客と週刊金曜日取材班が執筆していますが、見出しと筆者を書きだすと以下ようになります。

◎エスカレートする政治部の付度報道(永田浩三・武蔵大教授) ◎勤労統計不正調査報道

にみる作為の実態(醍醐聰・東大名誉教授)

◎安倍目線を解説するから岩田明子氏は解説委員？(山崎雅弘(評論家) ◎なぜ首相の「サングソ発言」を検証せず放置したのか(戸崎賢治・元NHK)

「検証」ここまで偏向している「アベチャンネル」の具体例――

「2017年総選挙時における北朝鮮「ミサイル報道」の怪」「意図的にカットされた故翁長前知事葬儀での「抗議の声」「西日本豪雨に対する首相の「連日対応」はフェイク」「国会での森友学園疑惑追及報道では答弁すり替え」

「編集後記」沖縄問題を自分の問題として
――ねりま沖縄映画祭に積極的なご参加を！

私は両親が沖縄宮古島出身ですが、東京で生まれ育っていますので、宮古島は田舎としては全く知らないという「宮古島2世」です。勿論、学生時代には「東南アジア研究会」というサークルに入ったくらいですから、沖縄に対する関心は強いと思っていましたが、75歳になったいま、沖縄のことをどれほど知っているのか、自分の“不明”を恥じるばかりです。

沖縄の人が日本兵に凌辱された沖縄戦、昭和天皇がマッカーサーに「(日本を解放すれば)何年も沖縄を占領しても構わない」といったことなど・・・最近知ったことです。「琉球処分」にしても、そうです。

薩摩の侵攻により、琉球王国が強制的にヤマ

トに組み込まれこと等は、東京新聞3月3日付の「特集 琉球処分」で平易にまとめられています。

沖縄を同情の目でみるのではなく、自分の問題としてとらえてほしい。私が「沖縄映画祭」に関わったのも、自分の心のふるさと沖縄をもっと知ろうという動機でした。「辺野古に基地をつくるな」という県民投票で示された沖縄県民の強い思いは、「琉球処分」の歴史を知ってはじめて理解できると思っています。

会員の皆さま、「沖縄映画祭」に積極的に参加して、沖縄をよく知ってほしいというのが私のお願いです。

(田場・記)

◇ 2018年度の年会費(一人2000円。家族会員1000円)の徴収を始めています。未納の方には振込用紙同封いたしました。会費等のお問い合わせは、
轡田(自宅3948-5129)まで。